

平成28年度 事業報告

財団の概要

当財団は、将来の人づくりを共通の目的として財団法人福岡県教育文化振興財団、財団法人福岡県青少年科学教育普及協会、財団法人福岡県奨学会の3財団の統合により、平成16年4月1日から財団法人福岡県教育文化奨学財団として、旧財団が行ってきた教育文化事業、科学教育事業及び奨学事業を引き継ぐとともに効率的・効果的な事業を展開した。

福岡県から公益財団法人への移行認定を受け、平成25年4月1日から公益財団法人福岡県教育文化奨学財団に名称を変更し、新たにスタートした。

第1 教育文化事業

1 事業概要

県内の教育文化団体等が実施する県民の教育文化活動を促進するための事業に対し、経費の一部を助成する「教育文化助成事業」を実施した。

併せて、財団が自主的に県民の教育文化活動を振興するために、教育文化団体等と共催で行う事業の経費の一部又は全部を負担し、当該団体等に執行させる「教育文化振興事業」を実施した。

2 事業の状況

(1) 教育文化助成事業

ア 青少年活動助成事業（決算額 3,062,000 円）

青少年体験活動助成事業

青少年の自主性、社会性、芸術性を培う多様な体験活動事業及びボランティアに関する学習や実践活動のための体験事業に助成した。

イ 地域文化活動助成事業（決算額 3,460,251 円）

(ア) 芸術文化活動助成事業（決算額 3,460,251 円）

芸術文化団体・グループ等が地域の文化振興のために実施する事業及び地域における芸術文化活動の活性化に不可欠な人材の育成を図る事業に助成した。

(イ) 文化財保存活動助成事業（決算額 0 円）

県下に残る民俗芸能等の文化財を後世に継承するための保存活動及び後継者養成活動等の助成申請がなかった。

ウ 教職員研究助成事業（決算額 859,000 円）

教育研究団体等が、教育課題の解決に向け自主的・先導的に行い、かつ、有益な成果が期待される研究・実践活動に助成した。

エ その他の助成事業（決算額 300,000 円）

中学校の文化部活動に対し、予算の範囲内で助成した。

（2）教育文化振興事業

ア 生涯学習振興事業（決算額 2,400,000 円）

（ア）子どもの学校外教育支援事業（決算額 2,100,000 円）

自然体験やボランティア活動、読書活動など体験や活動の機会の提供や、子どもの活動を支えるボランティアの育成活動を支援した。

（イ）国際交流支援事業（決算額 300,000 円）

小・中学校等へ外国人や海外経験を持つ日本人を派遣し、国際理解の促進と国際的視野を持った人材育成を図る事業を支援した。

イ 文化振興事業（決算額 5,070,000 円）

芸術文化事業

青少年の豊かな心を醸成するため、芸術鑑賞の機会を提供する事業や博物館等の独自の機能を生かした地域の活性化に繋がる事業を支援した。

ウ 顕彰事業（決算額 420,000 円）

教育実践研究や児童・生徒を対象とした競技会等で優秀な成績を収めた者を報奨した。

エ その他の振興事業(決算額 100,000 円)

財団設立の趣旨に沿う教育文化に関する創造的な学習、研究等の諸活動を特別に予算の範囲内で実施した。

第2 科学教育事業

1 事業概要

当財団は、福岡県が実施する指定管理者制度に基づき、久留米市中央公園内に設置された福岡県青少年科学館の管理・運営を行っている。

福岡県青少年科学館は、平成2年4月1日に設置され、同年5月1日に開館した。施設は、展示部門、プラネタリウム部門及びライブラリー部門を備えている。展示部門においては展示品目約170点を常設展示している。プラネタリウム部門においては平成18年4月にレーザープロジェクターを導入し、学習番組及び一般番組・全天周映画を投映するほか、天文や科学教育普及に関する各種事業のより一層の充実を図っている。ライブラリー部門においては科学に関する書籍を揃え、科学技術に関する興味・関心・意欲の向上を図っている。

展示更新については、平成7年度に「地球」コーナー、平成8年度に「乗り物」コーナー、平成9年度に「地球にはたらく力」コーナー、平成10年度に「宇宙」コーナー、平成11年度に「マルチメディアシステム」コーナー、平成12年度に「コンピュータ」コーナーの更新を行った。平成18年度には独立行政法人物質・材料研究機構による「ナノテクノロジー解説装置」を設置した(文部科学省委託事業)。さらに、平成23年度には「環境と自然の力」コーナー及び「先端科学技術」コーナーを設置し、青少年に科学との出会いを促すとともに、本県科学教育の普及・振興に努めているところである。

平成22年5月1日には、開館20周年を迎え、記念講演会や記念イベント週間、プラネタリウム学習番組の制作、特別企画等を行った。同年7月29日には入館者数が累計500万人を、平成25年8月12日には累計600万人を、平成28年11月19日には累計700万人を達成した。

2 施設の利用状況

(1) 展示部門の利用状況

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの利用者数は、一般77,841名、児童・生徒等108,067名、計185,908名となっている。

(2) プラネタリウム部門の利用状況

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの利用者数は、一般43,622名、児童・生徒等61,239名、計104,861名となっている。

(3) ライブラリー部門の利用状況

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの利用者数は、一般6,296名、児童・生徒等9,517名、計15,813名となっている。

(4) 利用者数の合計

一般127,759名、児童・生徒等178,823名、計306,582名となっており、県民への科学教育の普及・振興に大きな成果を上げているところである。

3 実施した事業の概要

県民への科学教育の普及・振興、特に青少年の科学への興味と関心を高め、科学する心を培うため、次の事業を実施した。

(1) 特別展・作品展・巡回展

ア 特別展

(ア) 「恐竜アドベンチャー～真犯人をさがしだせ!～」(平成28年7月9日～8月31日)

「恐竜」をテーマに、発掘現場の手がかりをもとに調査を進め、豊富な化石展示、さまざまな恐竜動刻展示を通して、恐竜の生態について興味・関心を喚起し、併せて県民への科学教育の普及・振興を図ることを目的として実施した。

参加者 59, 210名 展示数 85点

(イ) 「未来のデジタル科学館～一足先に未来の遊びを体験しよう～」(平成29年3月11日～5月7日)

最先端のデジタル技術を体験でき、子どもたちに想像力や夢を膨らませる展示を実施している。双方向性をもつ技術により子どもたちの動きや自作した絵画を展示物に投射することができ、青少年の科学に対する興味・関心を喚起し、併せて県民への科学教育の普及・振興を図ることを目的として実施した。

参加者 14, 770名(平成29年3月31日現在) 出展数 16点

イ 作品展

(ア) 「小・中学生理科研究コンクール」(平成28年10月15日～10月30日)

県内の小学生や中学生が個人又はグループで調べ、創作した理科に関する研究作品を募集し、表彰・展示することによって、子どもの科学する心を育むとともに、科学を追究・研究する子どもたちを奨励し、併せて県民への科学教育の普及・振興を図ることを目的に実施した。

参加者 9, 480名 出展数 102校 555点

(イ) 「未来を見つめる高校生の作品展」(平成29年1月21日～1月29日)

青少年への科学教育普及活動の一環として県内の工業に関する学科を有する高等学校の生徒が研究・製作に取り組んだディスプレイやインテリア等の作品を展示し、その取組を来館者に紹介するとともに、工業教育の活性化を目的として実施した。

参加者 2, 827名 出展数 11校 14点

ウ 巡回展

(ア) 「みずペディアーあなたの知らないワクワク水世界」(平成28年5月28日～6月24日)

地球上で人間がすぐに使える水はわずかであることや、外国から間接的に大量の水を輸入していることなど、水を取りまく様々な問題を紹介した。

参加者 9, 252名 出展数 19点

(イ) 「出動! 国際緊急援助隊ー世界は支え合っている」(平成29年2月4日～2月26日)

国際緊急援助隊について展示し、東日本大震災での各国の救助チームの活躍について振り返り、世界の国々が支え合っていることを紹介した。

参加者 8, 452名 出展数 45点

(2) コスモシアター運営

天文に対する興味・関心を高めるとともに、天体に関する知識・理解を深めるため、学校の理科学習の一助としての「学習番組」（学習指導要領に準拠した学習プログラムを含む。）及び迫力あるCGデジタル映像を駆使した一般向けの「一般番組」「全天周映画」の投映を行った。また、新たに幼児から小学校低学年向けの学習番組を追加した。

ア 学習番組

- ・幼児向け番組「オズのまほうつかい～星空のまほうの国へ～」、「ジャックとまめの木～星の国だいぼうけん～」
「ケンタのほしさがしイルカのドルとだいぼうけん」、「手ぶくろを買いに」
「くまの学校 ジャッキーのおほしさま」
- ・小学校低学年向け学習番組「忍たま乱太郎の宇宙大冒険 with コズミックフロント☆NEXT 太陽系のお友だちの段」
- ・小学校4年生向け学習プログラム
- ・小学校6年生向け学習プログラム
- ・中学生向け学習プログラム
- ・小学生向け学習番組「ワク・ドキ！探険☆大宇宙 ガリレオとめぐる太陽系の旅」
- ・中学生向け学習番組「ワク・ドキ！探険☆大宇宙 アインシュタインとめぐる銀河系の旅」
- ・環境学習番組「いきものがたり」「みずものがたり」

イ 一般番組・全天周映画

- ・名探偵コナン 探偵たちの星月夜
- ・オーロラの調べ
- ・秘密結社鷹の爪 THE PLANETARIUM ジュラジュラジュラシクトラベル
- ・くまものほしぞらおもちゃばこ
- ・感動体験！これが宇宙ロケットの打ち上げだ
- ・ポラリス

(3) 科学教育普及活動

ア 科学教育普及事業

(ア) おもしろサイエンスフェア（平成28年11月19日・20日・23日）

特設のサイエンスショー、特別イベント等を実施した。

参加者 5,288名

(イ) サイエンス教室 [13回]（平成28年5月～平成29年2月）

小・中学生に対し、観察・実験を通して身の回りの科学に触れながら、科学のおもしろさを体験させ、科学する心を培うことを目的に実施した。

参加者 243名

(ウ) ものづくり工房 [8回] (平成28年4月～平成29年3月)

小・中学生に対し、電子部品等を使った科学工作を通して工作の技術を身につけさせ、その仕組みを理解させるとともに、作品を完成させる達成感を味わわせ、科学に対する興味・関心を高めることを目的に実施した。

参加者 150名

(エ) 科学工作教室 [144回] (平成28年4月～平成29年3月)

当日の入館者に対し、比較的簡単でしかも興味深い工作の場を提供することで、科学への興味・関心を高めることを目的に実施した。団体利用者に対しても希望があれば臨時で実施した。

参加者 6, 232名 (臨時科学工作教室を含む。)

(オ) 科学講演会 [1回] (平成29年3月11日)

CG作家 藤本直明氏を講師に招き、プロジェクションマッピングや距離カメラなどの科学技術の解説を通じて、インタラクティブアートについて学び、科学教育の普及・振興を図った。

参加者 85名

イ 天文教育普及事業

(ア) 星空教室 [10回] (平成28年4月～平成29年3月)

天文に関する知識や観察技術を分かりやすく提供することを目的に、季節の代表的な星や星座の見つけ方の学習後、プラネタリウムでの実習を行った。また、話題の天文現象や星座早見盤の使い方についての解説を行った。

参加者 379名

(イ) 市民天体観望会 [12回] (平成28年4月～平成29年3月)

天文に関する興味・関心を高めることを目的に、当館のプラネタリウム、天体観測施設・設備を利用し、実際に月や惑星などを観察する機会と場を提供した。

参加者 994名

(ウ) 星と音楽の夕べ [3回] (平成28年7月2日、12月17日、平成29年2月11日)

天文教育の普及を図るため、プラネタリウムによる季節の星座解説と生演奏による音楽会を実施した。

参加者 369名

(エ) ファミリープラネタリウム [6回] (平成28年5月21・28日、7月30日、8月6日、11月12・19日)

家族で楽しみながら天文や宇宙に親しむことができるよう、双方向のコミュニケーションを重視した生解説を行い、天文教育の充実に配慮した星空解説や身近な天文現象の紹介を行った。

参加者 564名

(オ) 天文ボランティア養成講座 [4回連続] (平成28年10月15・22・29日、11月5日)

天文ボランティア養成のため、天文学や天体観測機器に関する知識・技能を習熟させ、また、観望会運営に関する実習等を行い、観望会を実施できる資質を身につけたボランティアを養成するための研修を実施した。

参加者

64名

ウ 連携事業

(ア) 指導者支援事業 [6回] (平成28年6月～平成29年3月)

青少年教育指導者、社会教育関係職員及び学校教育関係者等の青少年や市民に対する指導的立場にある者に対し、福岡県青少年科学館が有するサイエンスショーや科学工作、星座のさがし方などのノウハウを提供する支援を行った。

参加者 204名

(イ) ネットワーク推進事業 [11回] (平成28年5月～平成29年2月)

県内の子どもたちへの科学教育の普及・振興を図ることを目的として、県立社会教育施設や関係機関、久留米市等が実施するイベントや科学・天文事業に職員による講師の派遣支援を行った。

参加者 2,656名

(ウ) 科学館ボランティア (通年)

科学ボランティア (科学工作教室、ものづくり工房で活動) 及び天文ボランティア (市民天体観望会で活動) に活動の場を提供した。

平成28年度活動者数 (登録者数)

・科学ボランティア 21名

・天文ボランティア 54名

(エ) 研修生受入

○中学生の「職場体験」 (平成28年6月～9月) : 8名

○高校生の「インターンシップ」 (平成28年8月) : 4名

○大学生の「インターンシップ」 (平成28年8月) : 2名

○学芸員資格取得のための「博物館実習」 (平成28年7月) : 3名

○教員の社会貢献活動等 (平成28年8月) : 8名

(4) 調査研究・広報活動

利用者の便宜を図るために、科学に関する資料の調査・収集、レファレンスサービス等を行うとともに、科学館ニュース等の定期刊行物及びホームページによる科学情報の提供を行った。

また、教育事務所、市町村教育委員会、学校との連携を一層強化して、県内及び隣県の団体利用の促進を図るとともに、新聞やテレビ等マスメディアを活用して積極的な広報周知活動に努めた。

第3 奨学事業

1 事業概要

当財団においては、奨学事業として奨学金等貸与事業及び福岡県学生会館の管理運営を行っている。

平成28年度において、高等学校入学支度金は、2,534人に対し189,200,000円を、また高等学校奨学金は、14,914人に対し3,770,994,000円を貸与し、貸与総額は、3,960,194,000円であった。

一方、奨学金の返還については、返還義務額5,316,696,952円に対し3,416,230,160円の返還があり、回収率（返還期到来分）は64.25%であった。なお、繰上返還分を含む返還収入額は、3,690,909,456円であった。

2 事業の状況

(1) 奨学生の募集

高等学校奨学金の予約募集については、中学校在学中に市町村教育委員会を通じて募集を行い、同奨学金の在学募集は4月入学後から5月6日まで、緊急募集は4月入学後、随時募集を行った。

また、奨学生の選考については、奨学生選考委員会を開き、奨学生の採用を決定した。（緊急募集を除く。）

なお、平成28年度の出願率及び採用状況は次のとおりである。

区分	定員 (人)	出願者数 (人)				出願率 (倍)	採用決定者数 (人)			
		予約 募集	在学 募集	緊急 募集	合計		予約 募集	在学 募集	緊急 募集	合計
支度金	2,767	5,258	—	—	5,258	1.90	3,249	—	—	3,249
奨学金	5,196	5,908	1,278	74	7,260	1.40 (1.14)	5,079	1,086	66	6,231
合計	7,963	11,166	1,278	74	12,518	1.57 (1.40)	8,328	1,086	66	9,480

※ 高等学校奨学金出願率の上段 : 予約・在学・緊急募集を合わせた出願率
下段 () 書き : 予約募集のみの出願率

(2) 奨学金の貸与

奨学金は、本人名義の普通預金口座に3ヶ月分ずつ年4回に分けて振込を行った。平成28年度貸与額及び貸与実績は、次のとおりである。

区分		国・公立、私立、学年別		貸与額	
高等 学校	支 度 金	国・公立		50,000円	
		私 立		100,000円	
	奨 学 金	国・公立	1・2・3・4・5年生	(自 宅) 月 額	18,000円
					15,000円
					10,000円
			(自 宅 外) //	23,000円	
				20,000円	
				15,000円	
	奨 学 金	私 立	1・2年生	(自 宅) //	25,000円
					15,000円
				10,000円	
			(自 宅 外) //	30,000円	
				20,000円	
				15,000円	
奨 学 金	3・4・5年生	(自 宅) //	30,000円		
			20,000円		
			10,000円		
	(自 宅 外) //	35,000円			
		25,000円			
		15,000円			

平成28年度 貸与金

区分	学年	国・公立 私立別		当初予算額		貸与実人員	貸与金額	
				人員	金額			
高等 学 校	支 度 金	国・公立		人	千円	人	千円	
		1,406	70,300	1,284	64,200			
		私立		1,361	136,100	1,250	125,000	
	計		2,767	206,400	2,534	189,200		
	奨 学 金	1	国・公立	自宅 自宅外	5,196	1,216,764	2,031	395,330
			私立	自宅 自宅外			27	7,684
		2	国・公立	自宅 自宅外	5,189	1,273,596	2,430	675,560
			私立	自宅 自宅外			142	50,460
		3	国・公立	自宅 自宅外	5,246	1,443,576	2,209	426,650
			私立	自宅 自宅外			34	8,976
		4	国・公立	自宅 自宅外	302	84,408	2,579	719,620
			私立	自宅 自宅外			153	53,910
		5	国・公立	自宅 自宅外	46	10,356	2,369	470,029
			私立	自宅 自宅外			23	6,024
		計	国・公立		15,979	4,028,700	2,602	866,470
			私立				130	52,990
	合計	国・公立		15,979	4,028,700	100	19,029	
		私立				8	2,076	
			国・公立			40	7,890	
			私立			3	1,015	
		国・公立			23	4,548		
		私立			11	2,733		
		国・公立			0	0		
		私立			0	0		
		国・公立			6,835	1,343,079		
		私立			8,079	2,427,915		
		入学支度金			2,534	189,200		
		奨学金			14,914	3,770,994		

貸与総額 3,960,194 千円

(3) 奨学金の返還

返還滞納者については、毎月督促状を発送するとともに、滞納債権督促員による訪問督促を実施した。また、9月にわたり返還がない者2,388名に対して支払督促申立予告を行った。さらに、269名に対して強制執行手続開始を通告し、そのうち、11名の者に対して債権差押命令申立を行った。

平成28年度の回収状況は、次のとおりである。

区分	返 還 期 日 到 来 分										返 還 収 入 額					
	返還該当額 ①		猶予等額 ②		返還義務額 ③		返還収入額 ④		未返還額 ⑤ (③-④)		返還期日到来分④ (再掲分)		繰上返還分⑥		計 ④+⑥	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
高等学校 (支度金)	80,732 (27,184)	6,347,931,344 (318,284,611)	12,680 (4,925)	1,219,152,288 (66,938,810)	74,713 (25,187)	5,128,779,056 (251,345,801)	66,562 (21,425)	3,254,228,159 (134,783,389)	8,151 (3,762)	1,874,550,897 (116,562,412)	66,562 (21,425)	3,254,228,159 (134,783,389)	1,471 (685)	265,248,896 (13,805,092)	68,033 (22,110)	3,519,477,055 (148,588,481)
大 学	928	317,683,307	191	129,765,411	920	187,917,896	873	162,002,001	47	25,915,895	873	162,002,001	36	9,430,400	909	171,432,401
計	81,660	6,665,614,651	12,871	1,348,917,699	75,633	5,316,696,952	67,435	3,416,230,160	8,198	1,900,466,792	67,435	3,416,230,160	1,507	274,679,296	68,942	3,690,909,456

返還回収率 (④/③) 64.25 %

(4) 卒業奨学生に対する返還書類送付

平成29年3月卒業生に対し、平成28年11月10日に返還手続の関係書類を送った。
卒業生は次のとおりである。

区分	卒業生数
高等学校	5,290人

(5) 福岡県学生会館の運営

ア 福岡県学生会館

所在地 神奈川県横浜市青葉区荏田西一丁目14番の2
建築物 鉄筋コンクリート造5階建
1室1人部屋
収容人員 150人
英彦寮（男子居住区） 100人
筑紫寮（女子居住区） 50人

イ 福岡県学生会館入館選考状況

平成28年12月22日から平成29年2月1日まで募集を行い、学生会館運営委員会で選考し、次のとおり入館者を決定した。

区分		募集定員	申込者数	入館決定者数
福岡県学生会館	英彦寮	52人	79人	54人
	筑紫寮	24人	49人	26人